

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

|         |             |      |       |
|---------|-------------|------|-------|
| 報告番号    | 博（医）甲第1247号 | 氏名   | 野中 和樹 |
| 論文審査担当者 |             | 主査教授 | 関根 一郎 |
|         |             | 副査教授 | 矢野 捷介 |
|         |             | 副査教授 | 江石 清行 |

### 論文審査の結果の要旨

#### 1. 研究目的の評価

閉塞性動脈硬化(ASO)は生活習慣病の増加に伴い発症が増加しているが、ASO 初期また進展に結びついた分子マーカーは明らかでない。今回 ASO 発症・進展における酸化ストレス、特に酸化還元状態（レドックス）の役割に注目し、S-グルタチオン化血清タンパク質を測定し、ASO の初期・進展に関する分子マーカーの可能性の是非について検討しようとした研究目的は明確で評価できる。

#### 2. 研究手段に関する評価

ASO 患者および対照の選択、ASO の臨床的な進行度の評価方法、S-グルタチオン化血清タンパク質の測定方法など研究手段の選択とその手技は妥当であった。

#### 3. 結果・考察の評価

血清 S-グルタチオン化タンパクの平均値は ASO では対照の約 2 倍以上であり、ASO の初期から有意に上昇し、ASO の進展とともに増加しており、ASO 患者ではレドックス制御能が慢性的に低下していると思われた。血清 S-グルタチオン化タンパクの測定値は ASO の初期また病態進行の危険因子マーカーとして有用であり、新しい抗酸化治療の指標の可能性もある。この研究は動脈硬化の研究発展に大きく貢献するものであり高く評価できる。審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。